

## Point! 「新彩色の真珠の展開を支える知財保護」

### 支援内容サマリ

課題

● 課題の内容

- ✓ 試作した新たな色彩(藍色)の真珠の製法が特許で保護できるものか否か。
- ✓ 製法は特許出願で公開せずノウハウとして保護し、販売戦略としてブランドを検討すべきか否か。

支援

● 支援の内容

- ✓ 色彩付真珠の製造方法に関する従来技術の公報を調査し、それをもとにして特許権取得の可能性を検討した。色彩付真珠の製法には真珠核に着色するもの、真珠に後加工として着色するものがある。調査結果からは特許可能性は認められたが、素材との関係で問題が生じた。


成果

● 支援による成果

- ✓ 特殊真珠の製造方法に関する知的財産保護と知的財産の活用を目標とした支援も、ノウハウでの保護がベストであるとの結論に達したので。この支援は終了とする。

### 企業概要

所在地: 東京都葛飾区東小岩3-10-3

従業員数 : 1名		代表者 : 堀井誠口	
資本金 300万円	売上高 3,800万円		
<b>★沿革と事業内容</b> 2015年、天然灰汁発酵建藍染で染色した革ブランド「SUKUMO Leather」の開発を始めて10年となる節目に「株式会社ホリイ」を設立。皮革の販売及び卸し 皮革製品の製造販売及び卸し 皮革及び皮革製品の開発及びコンサルティング ブランディング及びデザイン業務。		<b>★保有知的財産権</b> 特許 : 0件(出願中含む) 実用新案: 0件 意匠 : 0件 商標 : 2件	
<b>★経営課題</b> 業界の枠にとらわれず新しい試み続けることで、皮革製造業界の活性と技術継承、後継問題に真っ向から取り組んでいる。		<b>★知財総合支援窓口使用状況</b> 知的財産での保護と活用・戦略について知識を得る。	

### 今回の継続派遣の対象

「天然灰汁発酵建藍染の技術」を活用することで、従来、「業界では動物性の皮に植物性の藍染をすることは技術的に不可能とされていた染色を可能にした。この技術を真珠の彩色に活用した製品と製法の知的財産での保護・活用を考える。新たな分野で超高級品のブランドの確立に知財を活用する。



### 継続派遣を受けて変わったこと(相談者の感想)

・独自商品とするための戦略の立て方、戦略の大事さ、ノウハウが分かった。

### ●支援の概要

#### ●担当した専門家(リーダー、同行専門家)

リーダー 飯田昭夫口(弁理士)  
 同行専門家 永田宙郷口(デザイン/ブランド専門家) 第1~4回

弁理士

デザイン  
 専門家

### ●支援計画の概要

- ・試作品の色彩の真珠は、真珠の表面に新しい色(藍色)をコーティングした特殊なものは存在していたが、真珠核を利用したその新しい色彩の真珠は過去存在していない。また製品そのものに商品力があると認められるので、販売戦略上その製造方法を特許化し、特許製品としての販売独占の特許活用を視野にしている事ができる。そこで、その製法を特許化した方が良いか、ノウハウのままの方が良いか、事業化を念頭に置いて計画化を支援する。

1回目	特殊な色彩の真珠の製法を確認するための支援
2回目	真珠核の着色工程のデータに基づき特許出願することができるか否かの判断を行う支援
3回目	製造方法の開示可能な範囲で出願内容を固めることである。また品質保証的なブランドの構築の方向性を決める支援
4回目	特許出願に必要な比較例などを精査する為の支援

### ●専門家活用のポイント

#### 1) 新規の製法を特許として積極的に保護するかノウハウとして秘密にするかを定める。(弁理士・デザイン・ブランド専門家)、

- ・現品の製造工程が支援者自らが行う工程でないため、その工程を特定し、従来技術との比較を行う。特許取得可能なものでも、営業戦略的にノウハウ(営業秘密)としておいた方が良い場合もある。
- ・藍色に染色する為に異なる素材を使用した場合の染色工程と従来技術との比較、生き物であるアコヤガイが吐き出すことのない素材の選別、海水或いは淡水中における脱色の可能性、真珠の養殖条件等比較実験データの集めるにはまだまだ時間がかかる。試作品の真珠そのものの製法は従来技術との比較で特許性有りであるが、他の染色素材を使用した場合の染色工程結果、真珠養殖成果を想定すると、段階的な商品価値を見出すことができる(超高級品・高級品)と思われるので、公開を前提とする特許化のメリット・デメリットを時間をかけて検討することが必要である。

#### 2) 新規の色彩を有する真珠のブランド化を考える (デザイン・ブランド専門家)

- ・藍色に関する特殊な彩色素材と、製造工程に関与する特殊技能を有する人のことを考え、超高額商品としてのブランド化を検討する必要がある。
- ・特に色つき真珠になると宝石でなく宝石店で扱われない可能性があるため、宝石店とは別の、超高級品を扱う業者へのアプローチが必要。